

漢字の「前倒し」授業

本来、1年かけて学ぶ漢字を1学期中にすべて習い、2学期以降はそれらを復習していくという取組み。日本人である以上、漢字を中心とする日本語に触れて生きていかなければならない中で、漢字が「読めない」「書けない」のでは、勉強は進みません。しっかりとした「漢字力」を身につけているということは、子どもが様々な勉強をしていく上で大前提となりうることは言うまでもありません。

困である」と言われるのですが、前倒し授業を行うことで、漢字をしっかりと覚え、豊かな語彙力を身に付けることができます。それともう一つ、漢字の前倒し授業は、言ってみれば一昔前に批判されていた「詰め込み」「ガリ勉」スタイルともいえるのですが、これが実は有効な学習方法だということです。ただ生活習慣を崩してまでやるとか、詰め込みだけでテストが済んだらおしまいというのは正しい「詰め込み」ではなかったのです。つまり「生活改善」をきちんと行い、集中力を高めた上で、“ガー”と一定期間覚え、その後は力が落ちないように反復を行うことで、基礎基本がしっかりと子どもの頭に定着していくという効果があるのです。

モジュール授業は 教師の力量に左右されない学習スタイル

【江澤】次に今回の取組みは、現場の教師の力量に左右されるのではないかという意見もありますが、いかがお考えでしょうか。

【陰山】どんな学習スタイルでも、教師の力量によって違いが出てくるというのはある程度やむを得ないと言われてますが、モジュール授業というのは、全学校、全地域で一斉にシス



※漢字の習得のため、手書きパソコンを使った取組みも進められています。漢字の形や筆順、覚えの悪い漢字などが記録として残るので、そうした苦手なところを徹底的に反復することが可能です。



テム的に行われるため、仮に慣れていない教師がいたとしても、教わる側の子どもが慣れていきますし、隣の学級をまねすることもできます。つまり、教師間の能力格差をかなり是正することができるのです。教師の力にばらつきがあることを前提にしながら、一環したシステムで6年間かけて、最も効果的に子どもの力を高めることができるやり方と言えるのです。

【江澤】確かに教師に話を聞くと「モジュール授業は疲れる、エネルギーが必要だ」と言われます。しかしながら「子どもが元気になれるから、自分も頑張れる」というある教師の言葉は印象的でした。

生活改善の成果はすぐにあらわれます

【江澤】次に家庭での取組み「生活改善」について、「早寝・早起き・朝ごはん」の必要性を先生は早くから提唱されていました。その必要性はどこにあり、子どもはどのように変わるとお考えでしょうか。

【陰山】私自身、体系的に始めたわけではありません。きっかけは些細なことで、教壇に立っていた時、朝「授業を始めるぞ」と言った矢先に、目の前の児童があくびをして、頭にきたということだったので(笑)。そんな子どもに対して、生活習慣を整えていくように指導していくと、すぐに効果があらわれました。よく教育の成果は時間がかかるといわれますが、決してそんなことはありません。朝ごはんを食べるようになっただけで成績が上